

授業の流れ

- ① 複数単元で継続して使用したワークシートから友だちの情報を読み取り、何を紹介するかを考える。(メモの活用)

*メモを基に毎時間1文程度ずつ紹介文を作る。教師が点検し、間違った表現をしている場合は指摘し、訂正させる。そして正確な表現になるように継続的に指導する。

- ② *のようにして毎時間書きためた紹介文をこの時間で完成させる。
 ③ 自然なジェスチャーと英語で紹介できるように練習する。
 ④ 友だち紹介の活動で、自己評価、相互評価する視点を知る。

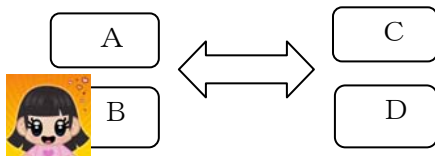
(友達紹介の例)

A: This is my friend, (Yumi).
 (B=Yumiを紹介)
 A: She likes tea very much.
 A: She doesn't like math.
 B: (Nice to meet you.)
 (Hello, how are you?) など

C, D: Hi, Yumi.

Oh!
 Me, too.
 Really?
 Oh, I see.
 Wow!

*C,Dはうなずいたり、あいづちを打ったりして、共感的に聞く工夫をする。



書く①
 毎時間ワークシートに情報を記入する。

書く②
 ワークシートから読み取った情報をまとめ、友だち紹介の文を作る。

話す(ペア)
 原稿を基にペアで練習する。

話す(4人グループ)
 他のペアに自分のパートナーを紹介する。

グループを替えて何度か行う。

「活用」の力を育てる評価の工夫

- ① ワークシートの工夫
 ワークシートを複数単元で継続して使用し、生徒に学びの見通しをもたせる。
 ② 動画による目指す生徒像の共有化
 単元末の活動で目指す姿を動画で提示する。生徒は目標となる姿を動画で見ることでよりイメージが鮮明になる。また単元の初めに提示されることによりその目標に向かって取り組む意欲が高まる。
 ③ 正確な表現の定着のための小刻みな点検
 紹介文を毎時間書きためさせ、それを教師が点検することにより、生徒に正確な表現を定着させることができる。

「活用」の力を育てる評価の視点

1時間で英作文をすべて書かせて紹介させたり、書かせずに話す活動のみにしたりする展開ではなく、単元全体の学習のつながりと単元末の活動をうまく統合した展開にし、活用する力を育成する。
 「活用」の力を評価する具体的な視点としては、以下が考えられる。

- ① ワークシート of 情報を正確に読み取り、何を発信するかを考えることができる。(メモの活用)
 ② まとまりのある紹介文を正確に英作することができる。(紹介文の点検)
 ③ 紹介文を基に適切に友だち紹介ができています。(活動の観察、自己評価表)
 ④ あいづちやうなずき、つながりの表現も使いながら相手の言うことを積極的に聞こうとしている。(活動の観察、自己評価表)

*指導のポイント

単元末の目標(友だち紹介)に向けて段階的に準備をさせる。紹介文は、毎時間少しずつ書きためていき、教師がワークシートに目を通しておくことで、正確な情報を蓄積していく。一度で多くのことをするより、情報を少しずつ蓄えることで、生徒に負担感を与えることなく、書かせることができるとともに、自分の英語の正確さを振り返り改善する機会をもつことができる。

[単元の流れへ](#)

[本時の流れへ](#)

HOME